

## 本部長指示

- 先日手交された評価報告書では、これまで札幌市が様々な改善を行い、自己評価と外部評価を実施した一連の取組は、先駆的な例として評価を頂いたところだが、今後の取組に関する様々な提言も多く、真摯に受け止めなければならない。
- 本日、各局から取組方針の報告を受けたが、評価報告書を踏まえた今後の取組に関する議論は緒に就いたばかりであると認識しており、今後は各部局が現在の業務を振り返りながら、さらに関係部局間でも改善点を議論するなどして、取組内容を具体的に深めていく必要がある。
- 特に、これまで繰り返し伝えてきた、一人一人が「協働の視点」や「支援を受ける側の立場になって問題を理解する観点」をもって仕事にあたるという組織風土を醸成し、確固たるものとして根付かせていくためには、児童虐待対応の核となる高い専門性を持った人材の育成が重要なことと考えている。
- 人材育成は一朝一夕でできるものではなく、5年先や10年先をも見据えた長期的かつ全体的なビジョンを持つ必要があるが、まずは個々の職員研修など見直すべきところは早急に取り組み、長期的な人材育成の方針や研修の体系について、外部の専門家の意見も踏まえながら、あらためて検討を開始するよう指示する。
- また、評価報告書を踏まえた今後の取組については、組織横断的な検討を行い、早期の実現を目指すとともに、痛ましい死亡事案から得た教訓を風化させないためにも、定期的な振り返りや外部の目も入れた点検と評価を継続的に実施し、取組の更なる改善を図るよう指示する。